

01-013

沖縄県における3歳児の歯牙別う蝕有病
状況とその要因

—沖縄小児保健研究—

比嘉 千賀子¹、山縣 然太朗²、安里 義秀¹、
宮城 雅也¹、(公社) 沖縄県 小児保健協会¹

¹公益社団法人 沖縄県小児保健協会、

²山梨大学大学院総合研究部 医学域 基礎医学系 社会医学講座

【目的】

「沖縄県における1歳6か月児の歯牙別う蝕有病状況とその要因—沖縄小児保健研究—」も目的と同じ。

【対象及び方法】

沖縄県小児保健協会が構築した乳幼児健康診査のデータベースを用いた。解析対象は、平成26年4月1日から平成27年3月31日に3歳児歯科健診を受診した14,352人である。方法は、「沖縄県における1歳6か月児の歯牙別う蝕有病状況とその要因—沖縄小児保健研究—」と同じである。

【結果】

歯牙の萌出率は、上下左右AからEまで全てで98%を超えていた。むし歯有病者率は上顎右Aが最も高く19.3%、下顎左右Bの0.5%が最も低かった。また、上顎左右AB及び上下顎左右DEが他の歯牙に比べ高くなっていた。

単変量ロジスティック回帰分析結果は、食事やおやつ時間は決まっている、及び仕上げ磨きを毎日しているが20歯全てで、出生順位が19歯、父親または母親の現在の喫煙が16歯、母親の年齢(25歳未満)が13歯、指しゃぶりがあると及び男児が9歯、フッ化物塗布をしているが3歯で統計的有意差が認められた。多変量ロジスティック回帰分析においても、単変量分析結果と一致した項目で統計的有意差が認められた。また、関連する生活習慣の項目数は、むし歯有病率が高い歯牙である上顎左右ABでは7個、下顎左右DEでは5～8個と、他の歯牙に比べて多かった。

【考察及び結果】

歯牙別う蝕有病状況に関連する3歳時の生活習慣の項目数は先に報告した1歳6か月時に比べ多かった。なお、3歳児歯科健診のう蝕罹患型と生活習慣との関連を検討したところ、C₁型を除いて、歯牙別のう蝕有病状況と関連した生活習慣と同様の結果であった。

即ち、従来報告されてきた食事やおやつ時間が決まっている、仕上げ磨き、母親の年齢、出生順位、母親または父親の喫煙の項目が歯牙別う蝕有病状況に影響を与えていることが示唆された。歯科保健指導に際しては、従来から行われている食事やおやつ規則性、仕上げ磨きを毎日行うなどを念頭においた対策を継続していく必要性が示唆された。なお、今後は、1歳6か月時の生活習慣との関連性についても検討を行い、3歳児のう蝕有病状況のさらなる改善に努めていきたいと考えている。

01-014

育児イベントに参加した乳幼児保護者への小児口腔保健に関する意識調査報告

今村 由紀

NPO法人歯ぐくみ

【諸言】

我が国では、1歳6カ月検診まで専門機関に小児の口腔について尋ねる機会のない保護者も多く、様々な疑問を抱きながらも、知人やインターネット上の情報に頼るケースが少なくない。当会では、育児中の保護者、特にまだ専門機関を受診することの少ない乳幼児の保護者向けに小児歯科医からの情報提供をすることを目的に、母親向けセミナーの開催や育児イベントへの出展などを行っている。

今回、一般の乳幼児の保護者が子どもの口腔保健についてどのような心配事をもっており、どのように情報収集、対処をしているのか、歯科受診についてどのような意識をもってしているのか、などについて育児イベントに参加した保護者にアンケート調査を行ったので報告する。

【方法】

都内の育児イベントに参加し、小児歯科ブースを訪れた0歳から3才の乳幼児の母親145人に、小児の口腔保健に関する無記名アンケートを行った。

【結果】

歯科医院通院経験のある小児は0歳6%、1歳25%、2歳44%、3歳82%であった。歯科受診歴のない小児の母親について、受診予定は「未定」47%、「むし歯になったら」9%、「集団検診で受診をすすめられたら」36%であった。子どもの口腔保健についての疑問を解決する手段としては、「ママ友達に聞く」が75名で最も多く、次いで「歯科医院を受診する」72名、「インターネットで検索する」71名であった(複数回答)。

自由記載形式の質問欄には、歯みがきに関するもの33名、歯並びに関するもの9名、フッ素や歯磨剤に関するもの6名、その他、歯の萌出時期や歯の色、母乳の与え方、おやつについてなど様々な質問があった。

【考察】

1歳6か月健診前の乳幼児は、まだ歯科医院を受診していないケースが多く、保護者らが小児の口腔保健の専門家から情報を直接入手できる場合は非常に少ないのが現状である。現在はインターネットで様々な情報が手軽に入手できるようになっているが、そのために正しい情報の取捨選択はかえって難しくなっている。

今回のアンケートからも、歯科受診経験のない乳幼児の母親が、様々な疑問や心配事を持ち、知人やインターネット上の情報を頼りにしていることが示唆された。

歯科医院を受診していない乳幼児の保護者に、小児歯科の専門家から情報提供をすることが可能となる場が広がる必要があると考えられる。